

最近のトルコ情報

今どきのトルコ

取材・文 / B B I 編集部

国外でのバスケットとサッカーのトルコ・ナショナルチームの活躍に
社会の混乱をひととき忘れたトルコ人。

実業家達のプライベート美術館も開かれて、文化を集大成しつつあるトルコの夏・・・

トルコ初 モード美術館

トルコの高級ブランド・ヴァッコ・ベイオウル本店内にトルコ初のファッション美術館が完成した。

一九三二年に「シェン・シヤプカ（陽気な帽子）」のブランドでこの業界でのスタートを切ったヴィタリ・ヴァッコは、ユダヤ系トルコ人。トルコの裕福な人々や外国人を対象に、高級服を作り続けている。その後、彼は、インテリアやアクセサリー等も手がけ、オスマントルコのモチーフを再現したコレクションも制作している。オリジナルの



ヴァッコ・モード美術館に展示されているドレス。

ネクタイや、スカーフは、日本人にも非常に人気がある。古き良きイスタンブルをしのぶ為には立ち寄って見たいかが。

(2001.06.14 Hurryjet紙)

11の夏の流行

・もともと屋外が大好きなトルコ人の心をつかんで今年ブームとなったのが、ガーデン・カフェ。屋外にテーブルを出すだけでなく、庭にクッションを並べて地面に座り、お茶やおしゃべりを楽しむ趣向のもの。



イメージチェンジで新しい魅力を振り巻くタルカン。

・毎年夏、名前が変わり、イスタンブルの夜遊び人のメッカとなるオルタキョイの今年のデイスコは「ライラ」。この夏、「ライラ」の入口で何人かの有名芸能人が入場を拒否されたことでも話題を呼んだ。行つては見たいが、我々日本人は入場させてもらえるだろうか。
・アメリカ留学、フランスでの活動と、四年にわたるブランクを経て凱旋帰国し、アルバム「カルマ」を出したタルカン旋風が吹き荒れている。ペプシコーラとも契約し、着実に「世界のタルカン」への道を歩んでいる。

ラフミ・コチの 第二産業博物館

トルコ産業の父と呼ばれた故ペフビ・コチの息子、トルコ第一財閥会長ラフミ・コチが二番目の産業博物館を金角湾沿いのハスキョイ造船所を改造して設立した。(一番目の博物館は、同じく金角湾のストウルジエにある)

彼は、四 年間幼い頃から興味を持っていた車や飛行機のオリジナル・アンティークを国内・国外から買い集め、修理し、コチ財閥生産の初の国産車等と共に展示して、博物館として集大成させた。

所蔵品は、全て外国の競売



ラフミ・コチ産業博物館内の様子。

や、アンティークショップで、彼自身が実際に触れ、彼の審美眼を通して選んだもの。当時トルコでは、修理技術がなかった為、職人を海外で修行させ、専用の工房も作って修理させたそうだ。

ラフミ・コチは、トルコには賭博好きで、年に三丁五百万ドル浪費する実業家もいるが、私は働いて、お金を稼いで、これらアンティークにつき込むことに喜びを感じている。芸術品は埃をかぶってはいは価値がない。トルコにはまだこうした産業博物館がないが、我々の博物館の設立で、金角湾周辺が文化地区となることを望む」と語った。(2001.07.08 Hürriyet紙)



コチ財閥の御曹司。トルコ実業界のリーダー、ラフミ・コチ。

マルマラ大地震から2年

一九九九年八月一七日イスタンブールの南西イズミット、アダバザル、ギョルジュックを中心とした広範囲を襲った震度七・四度のマルマラ大地震から丸二年が経った。

深夜午前三時二分に起こったこの地震は、人々を深い眠りの中で襲った為、生き埋めになった人が多かった。午前三時二分を待ち、黙祷を捧げる儀式が地震の被災地各地で行われ、メディアでも特別番組が組まれたが、一年目ほどの活発さはなく、早くも忘れられている雰囲気であった。

地震後、来るべきイスタンブール大地震について多くの学者が多様な説を唱えたが、最終的には、イスタンブールで大きな同じ規模の大地震が起こる可能性は、マルマラ大地震後三年間六五%以上、その後三年間、六五%との説が有力と見られている。あと一年は油断できない。

イスタンブールの地震では、日本での訓練のように机や、ベッドの下に入っただけではいけない。建物が崩れることを考慮して、潰れても自分の身を守る事ができるだけ体積が残る冷蔵庫や、洗濯機のような物のそばに身を潜めることが大切だ。しかし、これどころまで身が守れるのか。何事もアラの神のおぼしめし。

オーンニキ・デヴ・アダム

第三回ヨーロッパバスケットボール大会がイスタンブールで行われ、今までバスケットボールに興味がなかったトルコ人をも一気にバスケットファンにさせた。大会がイスタンブールで行われたのは一九五九年以来四二年ぶり。

人気グループ・アセナの「オンニキ・アツラツラム」をテーマソングに、ナショナルチームは、初戦の対レトニア戦に苦戦し、「オンニキ・ウユアンアダム」とすぐ様批判されたが、その後、



その名声と、期待を裏切らない好プレイで応援団を魅了したヒーロー、ヒダーエット(左)とイブラヒム(右)